

富山県立山町 釜ヶ泷地区

最適土地利用総合対策事業
農村型RMO(地域運営組織)モデル形成支援事業
をきっかけとした農村地域の活性化



釜ヶ泷みらい協議会
会長 山形 隆



棚田とカモシカ

中山間地域

農村・田園地帯
自然・文化



越中瀬戸焼



農村・稲作

山岳地帯

山岳信仰・雄山神社
山岳観光・山荘
立山黒部アルペンルート



雪の大谷



黒部ダム



立山連峰



富山平野

平坦地

住宅地・商工業
医療・スーパー



元気交流ステーション

【立山町】(R6.4.1現在)

人口：24,499 人

面積：307.31 km²

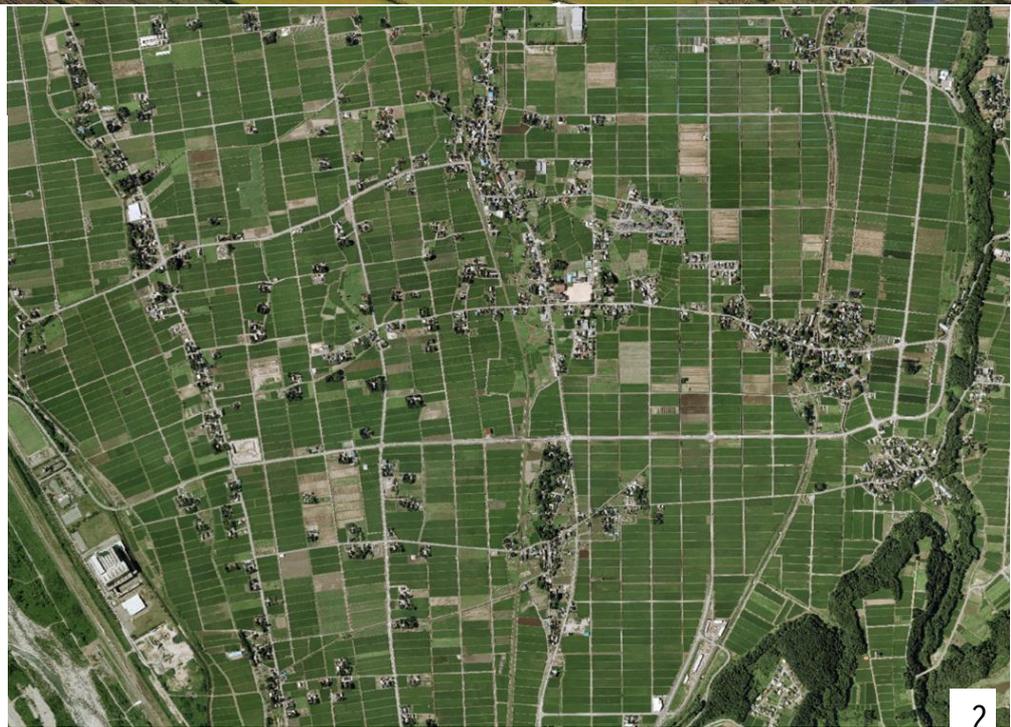
高齢化率：34.3 %





立山町 釜ヶ泷 地区

- 地区人口：1,581 人 (R2国勢調査)
- 農地面積：465 ha
- 立山連峰の麓に広がる散居村 (特別豪雪地帯)
- 富山市中心部から車で約30分
- スーパーや商店、コンビニが無い
- 個々の家が離れていて自動車中心 (地方鉄道、町コミュニティバスあり)



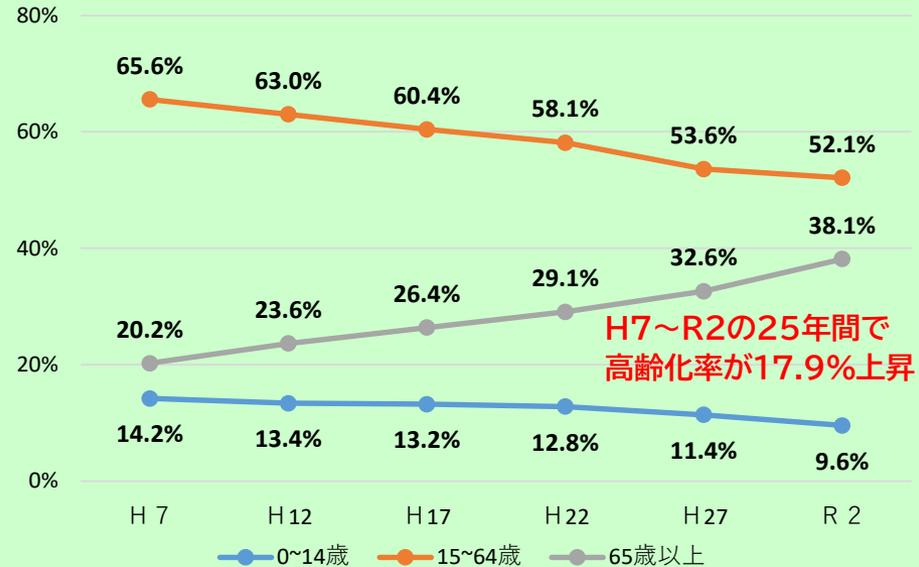
取り組みのきっかけ（地域の課題）

釜ヶ淵地区 年齢3区分人口推移（人）

H7~R2の25年間で
地区人口が28.6%減少



釜ヶ淵地区 年齢3区分人口推移（比率）



①人口減少・少子高齢化

園児数の減少と保育所の老朽化・非耐震により
釜ヶ淵保育所が閉所（平成31年3月末）

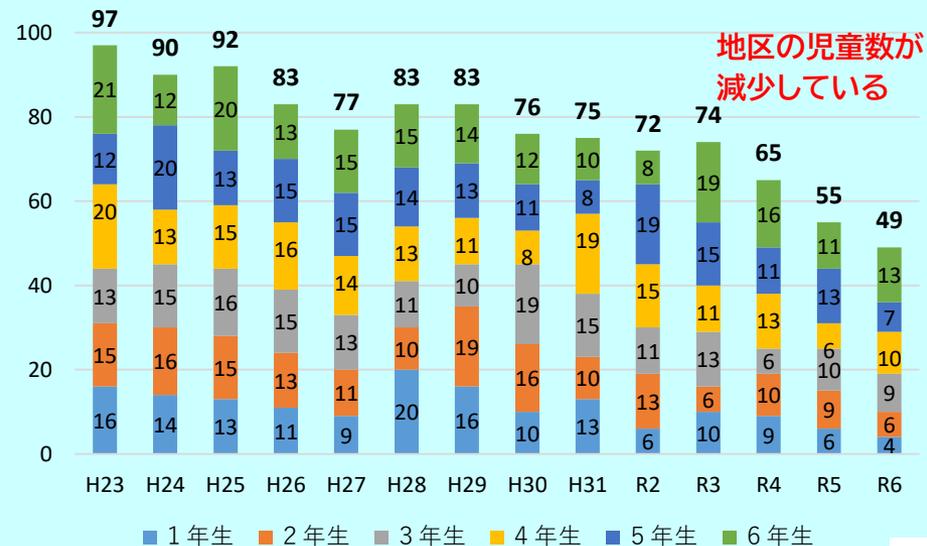
釜ヶ淵小学校についても児童数が減少。
（令和6年度から2年生・3年生が複式学級）
審議会の答申を受け、町教委と地元で協議中
（小学校適正配置検討審議会：令和6年3月）



地区の小学校が無くなることへの危機感

釜ヶ淵小学校 児童数推移（人）各年度4月時点

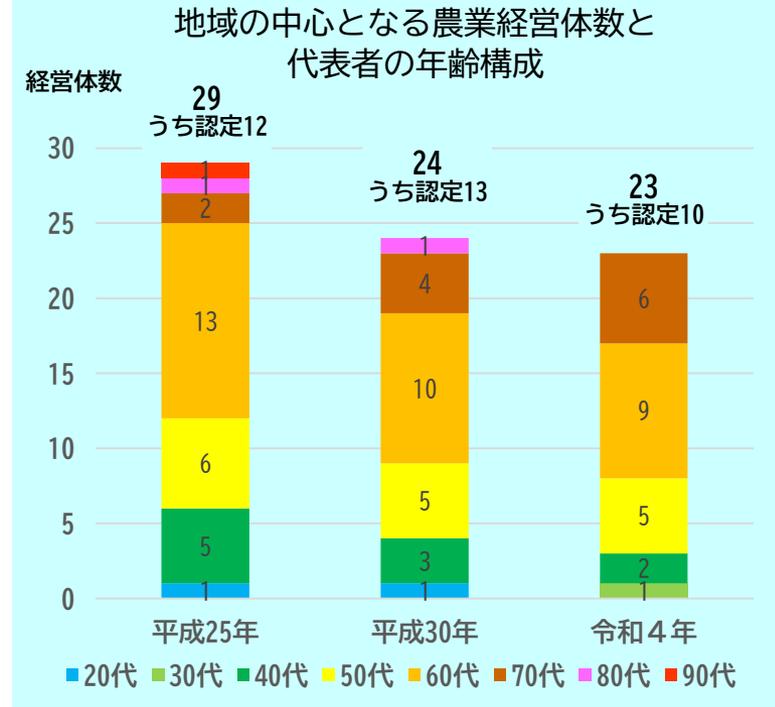
地区の児童数が
減少している



取り組みのきっかけ（地域の課題）

釜ヶ淵地区内の農地面積（農業振興地域）

農地面積	465 ha	農用地区域	397.7 ha	（基盤整備済み）
		農用地区域外	67.3 ha	（狭小・不整形）
作付面積	400 ha	食用米（コシヒカリ等）	65%	
		飼料用作物（飼料用米、WCS等）	15%	
		転作作物（大豆・大麦など）	20%	
		野菜類は、ほぼ家庭菜園のみ	—	



②農業者の減少・高齢化

農家の高齢化、後継者がいない（兼業農家・家族経営が多い、子世代は会社勤め）

「農事組合法人 清流立山」（地区の法人営農組織、約50haを経営管理）

構成員の多くが高齢者・専従者なし →これ以上引き受け面積を拡大することが難しい。

主要道路と鉄道線路との間に不整形な農地が残り、不耕作地が増加しつつある。



このままでは営農を続けられなくなる、田園風景が荒廃する恐れ

令和3年度から開始した取り組み

「最適土地利用総合対策事業」（農林水産省） 最大5年間（R3～R7）

《事業内容》地域ぐるみの話し合いを通じて、将来の農地の利用構想を作成し、
荒廃の恐れのある農地の有効活用や低コスト管理に取り組む

地域が将来も存続するために…何かしたいとの思いからスタート

→地域の話し合いをするなら「農地だけでなく、地域全体のことを話し合いたい。」
（メンバー：自治振興会、区長会、有志住民ほか）



しかし、1回目の検討会では…
地域課題が先行し、何をしたらいいか意見が出せない…

委員の中から、
「地域に面白いことをしている人がいる。
移住者の方もメンバーに加えてはどうか？」



2回目の検討会では…
外からの目線で「地域の活用できるもの」「自分はこんなことをやってみたい」
という提案から、前向きな意見交換に。

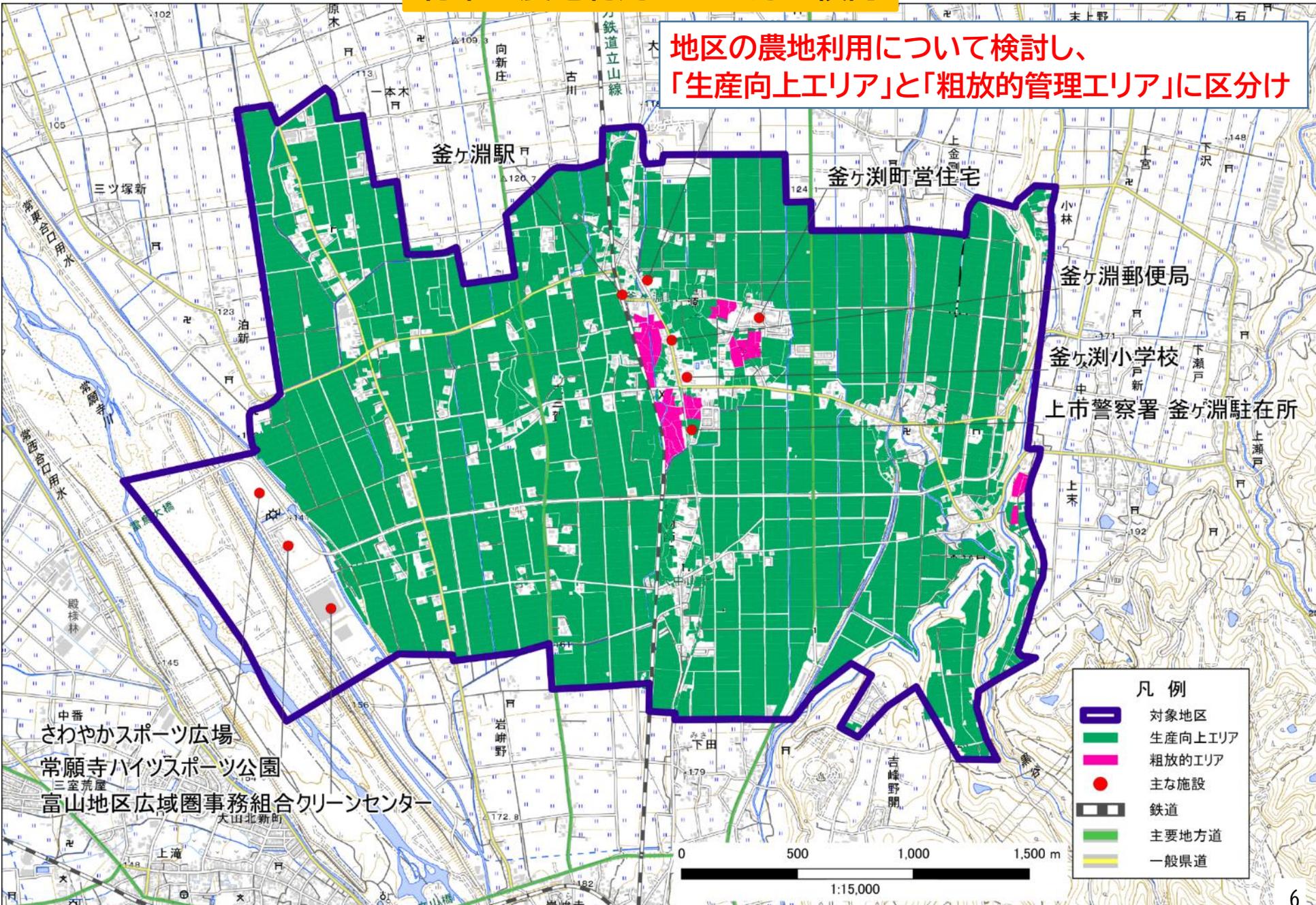


○耕作利用を推進する農地「生産向上エリア」と
低コスト管理により維持管理を図る農地「粗放的管理エリア」に区分け

○低コスト管理の方法について、実施内容と実行者を決定
（放牧管理・蜜源作物・ハーブ栽培）

将来の農地利用のあり方を検討

地区の農地利用について検討し、
「生産向上エリア」と「粗放的管理エリア」に区別



農地の低コスト管理の実践

ポニー放牧による除草管理



養蜂&蜜源作物(レンゲ等)



ハーブ栽培(カモミール)



令和4年度から開始した取り組み

「農村型RMOモデル形成支援事業」（農林水産省） 最大3年間（R4～R6）

《事業内容》地域の多様な関係者が参画して【農用地保全・地域資源活用・生活支援】などの取り組みを通じて、持続的な農村地域づくりに取り組む

地域全体の課題や対策について話し合ったことをさらに発展させ、地域の活性化に向けて、

いろいろな課題解決に取り組みたい。

自治振興会・区長会・青年グループ・農業委員・農業者・地区社会福祉協議会・地区公民館・公民館・地域おこし協力隊員・移住者を含めた住民有志により、

「釜ヶ淵みらい協議会」を設立（令和4年5月）



地区住民へ、協議会の設立と取り組み主旨についてご案内
地域の将来ビジョンづくりに向けて、事前アンケートを募集

- ① 地域の課題や問題点だと思うこと
- ② どのような地域になったらいいか（将来像）
- ③ 将来に向けてどんなことをやったらいいか（アイデア）



地域の将来ビジョンを考える検討会を開催
（第1回：9月、第2回：11月、第3回：2月）
メンバーの意見共有と提案活動の具体化を進めた。



「地域将来ビジョン」を策定（令和5年2月）

→「農地保全」「地域資源開発」「生活支援」の各部会で取り組む実証事業と実行役を決定

農村地域づくりの実践 「地域将来ビジョン」達成のための実証事業

①地域の交流拠点づくり「釜ノ蔵」

地域の中心部にある旧農協倉庫を活用し、交流拠点となる場所をつくる。

- ◆高齢者から子供まで、いつでも立ち寄れる交流空間にしたい。
- ◆地元の農産物を活用した「釜カフェ」を運営したい。
- ◆地域で生産された農産物などを販売したい。（軽トラ市やフリマを開催）

②コミュニティガーデンの活用

遊休農地を利用し、交流しながら楽しく農作業を行う場として活用する。

- ◆住民が交流を深めながら農作業できる場所をつくりたい。
- ◆地元で生産した野菜等を地域の方々に食べてもらいたい。
- ◆電車から見る景観を良くしたい。

③自然栽培米の試験栽培・市民農園の開設

遊休農地を活用して、自然栽培米の試験栽培や市民農園の運営を行う。

- ◆農薬・肥料に頼らない自然栽培で、特色のある地域の特産づくりに繋げたい。
- ◆駅に近い立地を活かして、地域外から農業体験に来てもらう場をつくりたい。

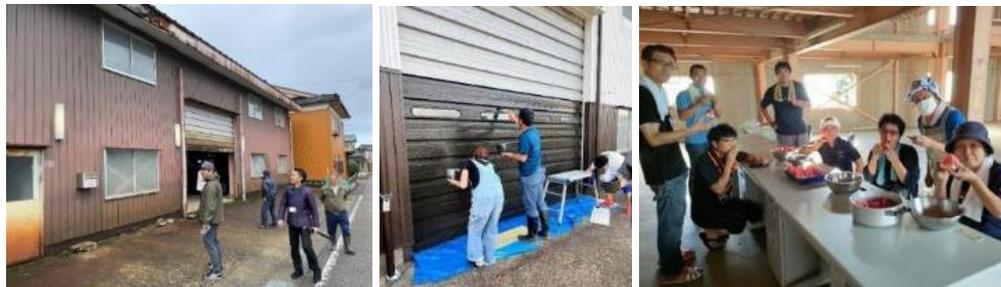
④農家民泊の運営

地域おこし協力隊員が、元空き家を利用して農家民泊に取り組む。

- ◆農家民泊に滞在して、地域の自然環境や農作業体験を楽しんでほしい。
- ◆地域内と地域外の方が集って交流できる場になってほしい。

① 地域の交流拠点づくり「釜ノ蔵」

- ・旧農協倉庫を改装し、地域交流拠点施設「釜ノ蔵」を立ち上げ（R5.8月）
- ・地域おこし協力隊員が運営する「釜カフェ薬膳 やわやわや」をオープン（R5.9月）
- ・納涼祭、鍋まつり、ふれあい食堂などの地域交流イベントを開催



旧農協倉庫を地域の手で片付け・掃除・改装



地域のご婦人方の支援・温かみのある季節の装飾



地域交流拠点施設「釜ノ蔵」をオープン



地域おこし協力隊員がカフェ運営・地元野菜を使ったランチ提供



様々な地域交流イベントに活用

② コミュニティガーデンの活用

- ・ 小區画な遊休農地を活用して「コミュニティガーデン」を設置
- ・ 一緒に農作業を行う「農園の日」(第2・第4日曜日)、農作業体験イベントの開催
- ・ 地元の特産となる農産物の栽培試験を実施



《令和6年度 釜ファーム栽培(案)》



小區画な農地の活用方法を検討



農園メンバーで農地管理・土水路の泥上げ(野球部協力)



地域のベテランに教わりながら一緒に作業



地域内外から参加する農作業イベント

③ 自然栽培米の試験栽培・市民農園の運営

- ・ 小区画の農地を活用した「自然栽培米」の栽培実践
- ・ 「立山農学校」を開催（自然栽培米の農作業体験・里山の暮らしの学習会など）
- ・ 地方鉄道の駅最寄りの市民農園として、農地区画を貸し出し



農薬や肥料に頼らない自然栽培米の実践

地域内外から参加者を募り、学習会・交流会を開催



駅近の立地を活かして、市民農園として区画利用

④ 農家民泊の運営

- ・住宅(元空き家)や古民家を利用した農家民泊の受入環境づくり
- ・農業体験や地域体験を農家民泊の受け入れを実践



農泊の開始に必要な受入環境づくり

町の農泊事業で県外の中학생等を受け入れ

⑤ 生活支援事業の実証 (R6年度から)

- ・地域の自然を活かした子育ての場づくりの実践
- ・高齢者宅等においてICT技術を活用した生活支援の実践



親子で自然を体験する「里のようちえん」の開催



「マゴコロボタン」を利用した生活情報提供・交流促進

事業実施による効果

地域の連携・人の繋がり広まり

- 顔を普段合わせない人がやって来て、地域の中で新しい人の繋がりが広がっている。
- 活動を通して、様々な人・団体・教育・企業等との協力の輪が出来つつある。



継続した話し合いの場・意見交流

- 定期的に集まって話ができる場が生まれた。(月1回の定例ミーティング)
- 一人だと1枚のカードだが、みんなでカードを出し合うことで内容がより展開していく。



今後の活動に向けて

- まだ活動を始めて期間が短く、地域活動を継続していくための基盤が弱い。(収益に繋がる活動が必要)

地域の農産物の販売 → 軽トラ市・直売、カフェメニューに活用

地域の特産となる農産物・商品化 → サツマイモの栽培・甘酒などに加工販売

- 農村地域の魅力を活かした活動を長く続けていくために。

より多くの人に関わってもらおう → 活動を楽しむ・参加する仲間づくり



今後も、人と人の繋がりを大切に、農村地域の魅力を活かした活性化を目指したい！